

きなきにできること

二年 川口海璃

最近動物を飼いはじめた。その動物とはモルモットである。だけどもう動物は飼いたくない。
（もう動物は飼いたくない。）
そう思っていた。

モルモットを飼いはじめる前、二匹のハムスターを飼っていた。そのハムスターがある日、いきなり歩くのも困難なほど弱ってしまった。原因は腹水という病気になっていたからだだった。そのハムスターのお腹は前に比べてものすごくふくれ上がり苦しそうだった。

（どうしてもっと早く気づかなかっただろう。）僕はものすごく後悔した。動物を飼うということはその動物との別れもある。そう分かっていた。けれどもやっぱりすごく悲しかった。

そんなことがあってからもう動物は飼わないと決めていた。そしてある日、弟が「モルモットを飼いたい。」

とお願いした。お母さんも賛成していたが、僕は前に飼っていたハムスターを思い出しそのことからどうしても賛成はできなかった。

そして少したったある日、近くのお店にモルモットが売られていた。そのモルモットは手の平より小さく、かわいかった。手の色が左右別々の色でお腹も左右で色が違っていた。そのモルモットを見てお母さんが、

「この子飼わない？」

と言った。でも僕は返事を返せなかった。僕は複雑な気持ちだった。確かに飼ってもいいと思った。実際にモルモットを見て少し気持ちが変わった。でもそのモルモットを飼ってから世話もしないといけないし小屋の掃除もしなくてはいけない。モルモットに苦しい思いもさせたくない。飼うからには責任をもたなくてはいけない。そんな二つのことを思っていた。そして家族で会議をした。弟やお母さんの飼いたい気持ちが強かった。それからだんだん気持ちが変わっていった。

その日から数日たった。僕とお母さんはあのモルモットがいるお店に向かっていた。僕はもうあの子をむかえ入れようと決めたのだ。そのモルモットを店員から受けとったとき、ものすごく重い気がした。手の平より小さいはずなのにそう感じた。それと同時に

（このモルモットを絶対に幸せにする。）

と思っていた。家に帰ってから名前を決めた。名前はずんだもちきなこにした。

もう動物は飼わないと決めていたけどモルモットを飼って命の大切さを改めて知れた。これからこのモルモットを絶対に幸せにしたいと思っている。